

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第 32 号 (平成 26 年 9 月発行)

さる 7 月 18 日 (金) に平成 26 年第 2 回定例会が開会され、7 月 30 日 (水) に一般質問と議案 1 件の審議が行われました。

一般質問では、小野欽市議員 (三重県議会選出)、伊藤嗣也議員 (四日市市議会選出) の二人から下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

小野欽市 議員



○ **次期戦略計画の策定に向け、現行の戦略計画での取組をどのように評価するか。また、現行計画策定後の状況変化を踏まえ、次期戦略計画ではどのような港を目指していくのか、管理組合の見解を伺いたい。**

◎ 現行の戦略計画での取組については、おおむね計画期間内の目標達成が見込まれており、一定の進捗・成果が得られているものと認識している。現行計画策定後の状況変化としては、荷主企業からの要請・船会社からの要請・国の政策の変化の 3 点において変化があったと考えている。その変化をふまえて、次期戦略計画では、①背後圏の産業構造に合致した総合港湾としての機能を継続する港、②コンテナ貨物を取扱う港としてより多くの荷主企業や船会社から選ばれる港、③施設整備や改修等に対して国際戦略港湾政策・国土強靱化基本計画などの国の政策を最大限活用する港、の 3 つの方向を目指していきたい。

伊藤嗣也 議員



○ **千歳町 5 号物揚場について、平成 19 年度に改修工事を完了したが、歴史的な景観に配慮しないコンクリートで改修をし、かつその擁壁が海側へはらみ出し、エプロンが陥没し、既存の物揚場にまでひび割れを生じさせている。完成して間もない物揚場がこのような変形した原因と責任の所在・今後の対応策について管理組合の説明を求める。**

◎ 千歳町 5 号物揚場については、平成 18・19 年度に施設の崩壊を防ぐための応急的な工事として 30 メートルの区間を約 800 万円の費用をかけて実施した。同じ地区内の他の物揚場と同じ工法であり、かつ工事検査でも問題はなかった。しかし、当時は経済性を重視したため、景観への配慮は行っておらず、また現在崩壊するおそれもあるため、今後は国の社会資本整備総合交付金を流用し、緑地と位置づけ、既存の石積みを用いて修景を活かしつつ、本格的な改修を行っていきたい。

※詳細な質問答弁等については、当組合議会ホームページ会議録をご覧ください。